

《ダム湖の水質改善を目指し 水源の水を守る》

水 泥 新 聞



第 4 号

発 行 F C 水 泥 編 集 室
電 話 (052) 733-0325

窒素・リン除去型浄化槽の設置に 取り組む相模原市

相模原市の人口は72万人。神奈川県では横浜市、川崎市に次いで3番目、全国の市の中でも18番目の人口規模を誇る。ここは神奈川県にとって重要な水源地域だ。

豊かな自然を誇る 津久井地域

相模原市は平成18年(2006年)に津久井郡の津久井町と相模湖町、平成19年(2007年)に藤野町と城山町の4町を合併編入した。

丹沢山地と秩父山地に挟まれた旧津久井郡(津久井地域)の4町は相模原市の面積の77%を占めるが、人口は相模原市の約1割に過ぎない。地域の中央には相模川が流れ、多くが山間地域となっている。

相模川は山梨県の山中湖を水源とし、津久井地域で相

模湖と津久井湖の2つのダム湖へ流入する。津久井湖周囲は桜の名所として知られ、秋の紅葉、冬のワカサギ釣りを楽しむ人も多い。相模湖もワカサギやヘラブナなどの釣りや美しい自然を求め、四季折々にハイキングに訪れる人で賑わう。

これら4つのダム湖及び周辺は神奈川県へ供給する上水道の重要な水源地域だ。

神奈川県の水源の一つ となっている相模湖

相模湖は昭和39年(1964年)の東京オリンピック



神奈川県の水源の一つとなっている相模湖

クで力又一競技場になったが、昭和60年頃からダム湖にアオコが発生するようになった。ダム湖周辺の開発により、津久井地域や上流域の市町の人口増加によって生活排水が増加したからだ。

相模原市との合併を機に見直された下水道整備計画

4町と合併した相模原市は平成19年(2007年)に下水道整備計画を見直し、将来の人口の状況などを考慮して、一部の地域を下水道整備から浄化槽整備に切り替える見直しを図った。

下水道整備計画のない地域は、補助金を使い個人での浄化槽の設置や転換を進めているが、問題は下水道整備が縮小された地域だ。

浄化槽整備は下水道整備と同じ

下水道整備計画が縮小された地域は、多くの家で単独浄化槽が汲み取りが使われている。しかも計画縮小地域は山間部で水源地域となっているため、未処理の生活排水が水源のダム湖へ流入する。

公共下水道工事は自治体の負担でおこなわれる。整備計画の変更により個人



潤水都市 さがみはら

相模原市の魅力を訴えるキャッチコピー。ロゴマークには「緑が水を守り、水が緑を守る」という意味を含め、相模原のイニシャル「S」を葉っぱに見立ててあります。窒素・リン除去型浄化槽の設置工事現場ののぼりにも、このロゴマークが入っています。



●相模原市では地域のお祭のとき、窒素・リン除去型浄化槽への転換をPRしています。



●団地内の敷力所で、転換工事が行われています。



●単独浄化槽から窒素・リン除去型浄化槽への転換が進められている団地。

で浄化槽を設置することになれば、費用は住民が負担することになってしまふ。そこで相模原市では、浄化槽の整備も下水道整備と同じという考えに立ち、市で負担することにした。

下水道整備計画から外れた地域では、当初は補助金で浄化槽を個人設置し、設置後に市へ浄化槽を寄付してもらうという形をとっていたが、平成21年(2009年)から市で浄化槽を設置する形に切り替えた。

維持管理も同様に、市が費用を負担し実施している。フジクリーンは相模原市と契約している維持管理業者に対し、窒素・リン除去型浄化槽の維持管理講習会をおこなっている。さらに浄化槽設置現場のパトロールも実施し、メーカーとして維持管理をサポートしている。



地元の維持管理業者を集めての講習会

浄化槽へ転換するため、単独浄化槽を撤去する費用も市で負担する。浄化槽を新たに設置する場合であれば個人住宅、事業場と建築用途は問わない。こうした費用の一部には神奈川県が平成19年(2007年)から導入した水源環境保全税からの水源交付金も活用されている。

整備推進への課題

浄化槽の設置を市がおこなうとはいっても、公共下水道と同じように、浄化槽までの配管工事などは住民負

担となる。

単独浄化槽から浄化槽に転換することで得られる直接的なメリットを、住民は感じにくい。そのため浄化槽だけを入替える例は少なく、住居を増改築するか建て替えるタイミングでの入替が多い。

家を新築する場合なら浄化槽の設置は容易だが、高齢者家族だけで住んでいる場合は家屋への愛着が深く、建て替えの機会もなかなか訪れない。また住民が転換の必要性を知らないことも、単独浄化槽から浄化槽への転換が思うようにはかどらない原因の一つだ。

水源域の水質改善を目指す

相模原市は下流域の水道水源を守るため、ダム湖の水質改善を目標に掲げ、汚水処理未普及の解消を目標に事

業を進めている。

取り組みの一つが平成25年(2013年)から地域を絞り込んで開催している住民説明会だ。

転換を考えている住民には、浄化槽の性能や個人負担分などの情報提供をおこなっている。説明会は浄化槽の整備対象地域で順次おこなっており、一人でも多くの住民に理解してもらおうと、同じ地域で2度、3度おこなうこともある。

さらに相模原市は地域でお祭りが行われる時に浄化槽コーナーを設け、住民に水源であるダム湖の水質改善の必要性を積極的に呼び掛けていく。フジクリーンも窒素・リン除去型浄化槽の性能・しくみや特長を広く知ってもらうため、カットモデルを展示したり、住民の質問に答えたり普及促進に向けてサポートしている。

また、共同の雑排水処理施設を運営していた自治会がまとまって単独浄化槽から浄化槽への転換を進めている団地も現れてきた。

相模原市が抱える高齢化や転換の必要性を理解してもらうことは、全国の自治体が共通して抱えている問題だ。しかし浄化槽整備は下水道整備と同じであるという認識での取り組みは、水質保全に取り組み他の自治体へのケーススタディとなり、下流域と上流域の住民の相互理解の礎にもなるであろう。



相模原市「やまびこ祭」でおこなわれた窒素・リン除去型高度処理浄化槽のPR活動

さかな
小さい魚見つけた

子供たちが水まみれ泥まみれになって遊ぶことのできる、生物にあふれた小川や水辺の回復を目指します。

美しい水を守る
フジクリーン工業株式会社
<http://www.fujiclean.co.jp/>